

平成 27 年度東京都信用金庫協会優良企業表彰に於いて  
にじの会が信金中央金庫理事長賞を受賞しました



東京ドームホテルでの式典



平成 28 年 3 月 25 日の東京新聞（朝刊）に受賞企業の紹介の記事「素顔の表彰企業」

## 障害者の自立を支援

「知的障害のある子どもや大人が地域で暮らせる場をつくる」を目標に掲げ、調布養護学校（当時）に通う児童生徒の親や教員有志が、一九九五年に「にじの会」を結成した。

二十一年間で、グループホームや日中を過ごすための施設など七カ所を三鷹、調が卒業後も家族や友人から

にじの会は特別支援学校に近い住宅地に施設をつくることこだわった。生徒ら卒業後も家族や友人から

信金主催  
**素顔の表彰企業**

▶▶5

「知的障害のある子どもや大人が地域で暮らせる場をつくる」を目標に掲げ、調布養護学校（当時）に通う児童生徒の親や教員有志が、一九九五年に「にじの会」を結成した。

二十一年間で、グループホームや日中を過ごすための施設など七カ所を三鷹、調が卒業後も家族や友人から

にじの会は特別支援学校に近い住宅地に施設をつくることこだわった。生徒ら卒業後も家族や友人から

信金中央金庫  
理事長賞

石崎優仁理事長

「利用者の暮らしがかかる福祉は、継続性が大事。業界で先駆けて職能給を取り入れ、優秀な人材が定着するように努めてきた。安定経営を心掛けてきた点が評価されたのではないか」

遠く離れず、慣れた環境に居続けられるようにとの思いからだ。

創立メンバーの一人、石崎優仁理事長（左）も長男と長女がともに重い知的障害がある。周辺住民から反対されたこともあったが、パンや豆腐を作って、店頭で販売する工房も好評。豆腐は四年前から給食用にも提供を始め、現在は三鷹市内の小中学校の六割に納品。売り上げは多い時に月百五十万円に上る。

利用者の高齢化が進んでおり「安心して人生の最期を迎えられる場をつくりたい」と話している。